

水曜通信27

東北学院宗教センター編

2023年
5月

第62回 水曜公開礼拝

2023年5月17日(水) 18:30-19:00



<礼拝次第>

前 奏：F.メンデルスゾーン作曲

前奏曲 ト長調（前奏曲とフーガ ト長調 作品37-2より）

讃美歌：39番 「ひくれてよもはくらく」

聖 書：詩編90編

讃美歌：第2編 4番「この世にあかしをたて」

説 教：「閉じられた扉と開かれた扉」

頌 栄：545番 「ちちのみかみに」

後 奏：F.メンデルスゾーン作曲

アンダンテ ニ長調（ソナタ第6番作品65-6より）



説教
宗教センター主事
(仙台南伝道所牧師)
佐藤 由子



奏楽
本学文学部教授
椎名 雄一郎

後奏の後、椎名 雄一郎氏（本学文学部教授）によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第63回水曜公開礼拝は2023年6月21日です。

第61回 水曜公開礼拝報告（説教：野村 信、奏楽：小野なおみ）

2023年4月19日（水） 18：30－19：00

讃美歌：122番 「みどりもふかき」
聖書：ルカによる福音書 6章20節～26節
讃美歌：38番 「わがたまのひかり」
説教：「器に満たすべきもの」
頌栄：540番 「みめぐみあふるる」



【説教要旨】

人間は器であるとは、誰でも思うことですが、私たちの人生も世界も器であるということも良く考えると納得のいくことでしょう。実際、器の中にあふれるほどのものが詰まっていたら、新しいものを入れるスペースはなくなってしまいます。キリストは、私たち人間という器には本当に満たすべきものが満たされていないと言われます。そこで貧しい人、飢えている人、泣いている人たちの幸いを語られます。器が空なので、新しく満たすことが可能になります。私たちがたくさん得ているようで、本当に大切なものを満たしているかが問われています。（宗教センターチャプレン野村 信）

前奏：J.S.バッハ作曲「クリステ、世の人すべての慰めなるキリスト BWV670」
後奏：E.エルガー作曲《夕拝のためのヴォランタリー》作品18より「第3番 アンダンティーノ」

バッハの「クラヴィーア練習曲集第3部」には、教理問答歌やその他の賛美歌に基づく21曲のコラール前奏曲が含まれています。今回前奏として演奏した曲はドイツ語キリエ第2部によるもので、定旋律はテノールに置かれています。

後奏曲は「威風堂々」などで有名なイギリスの作曲家、エルガーの作品です。エルガーは故郷の教会でオルガニストを務めていた時期もあり、オルガンソナタや《夕拝のためのヴォランタリー》などを作曲しました。（礼拝オルガニスト 小野 なおみ）



礼拝とその後19時00分から30分までの小野なおみ氏によるオルガンと中川郁太郎氏（本学特任准教授）の独唱による賛美に41名の方が参加されました。

礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏・奏楽：小野なおみ 独唱：中川郁太郎）

1. J.S.バッハ作曲《オルガン小曲集》より〈復活の主は〉（讃美歌21-316番～BWV627）

現在伝えられている最古のドイツ宗教民謡が、やがてラテン語の復活祭の統唱の旋律と共に歌われ、宗教改革者ルターにも、イースターの讃美歌として採用されました。のちに《オルガン小曲集》でこのコラールを作曲したヨハン・ゼバスティアン・バッハは、3節ある歌詞の内容に沿った三部構成のスケールの大きいプレリュードを生み出しました。本日は讃美歌とコラール前奏曲を、一節ずつ交互にお聴きいただきます。

2. J.S.バッハ作曲《アンナ・マグダレーナのための楽譜帳》より〈あなたさえ側に居れば〉（BWV508）

この曲の原曲は、ライプツィヒ近くの街ゲーラやゴータで楽長として活躍したゴットフリート・ハインリヒ・シュテルツェル（1690～1749）の歌劇《ディオメデス》の中のアリアです。バッハが《アンナ・マグダレーナのための楽譜帳》に鍵盤楽器（連弾）と独唱のための曲として採譜し、この形で有名になりました。ロマン派の香すらする、不思議に新しい響きのアリアです。

3. フーゴー・ヴォルフ作曲《メーリケの詩による歌曲集》より〈祈り〉

ヴォルフは19世紀後半に、歌曲の分野のみで活動した作曲家で、ドイツ歌曲の中後期の発展に重要な役割を果たしました。〈祈り〉は53曲ある《メーリケの詩による歌曲集》の中の1曲で、ヴォルフ歌曲の一つの特徴である宗教性をつよく感じさせる作品です。本日は今年生誕150年を迎えた巨匠マックス・レーガー編曲によるオルガン版でお聴きください。



4. 大中恩 作曲《ユダ 哀しい裏切》より 〈ひかり〉

霊南坂教会オルガニスト、聖歌隊指揮者を60年間務めた大中寅二を父に持つ大中恩は、それが故に作曲家としては教会音楽に顔を背けていた時期が長かったそうです。しかし裏切り者ユダを主題にした北島万紀子の詩に触発され、連作歌曲集《ユダ 哀しい裏切》を生み出しました。〈ひかり〉は歌曲集の最後、ユダの「裏切ったのはわたし、このわたしだ」という叫びを受けて、イエス側の視点から歌われます。
(本学特任准教授 中川 郁太郎)

宣教師たちの生涯と思想 (3) J・P・モール先生の思想

この記事を書く中で、2023年がモール師来日140周年であることに気づきました。1883年に来日したモール師は、その後40年間にわたり、キリスト教宣教と教育に従事しました。明治時代半ばから大正時代の終わりまで、モール師は、近代日本の確立を目の当たりにしてきたこととなります。モール師は、急速な近代化を逃げる日本社会の中で、「新しい女性」の出現について触れています。日本人女性の教育の機会と社会的地位の向上が、キリスト教宣教の最高の「副産物」であり、「福音が女性性の向上、改善、救済に貢献した」(*Forty Years in Japan*, p.170) と、誇らしげに述べるモール師の言葉に、ベテラン宣教師の矜持と日本社会への思いを垣間見る気がします。

(大学宗教主任 藤野 雄大)



*写真はJairus P. Moore, *Forty Years in Japan*, p.164より。
洗礼を受けた古川の製糸工場の女性従業員たちと解説されている。

— 建築が語る東北学院の歴史 (18) —

第二次大戦前に竣工した土樋キャンパスの歴史的建築には、各所に戦時中の「金属供出」の記憶が刻まれています。本館や礼拝堂の階段には、手摺の支柱が切断された痕を確認できますし(図1)、繊細なデザインが施された当初の門扉(図2)や礼拝堂の照明器具は、この時に失われました。

土樋キャンパスの建築家・Jay H.モーガンは、精緻なアイアンワークを得意としていましたが、そんな彼の門扉のデザインの原点と言える作品が、本学の正門でした。例えば横浜市の開港資料館に残されているモーガンの設計図面によれば、本学(1926)の2年後に設計した関東学院の門などは、本学と非常によく似ていたことがわかります。また、本学礼拝堂の工事中に彼が設計した自邸(1931/神奈川県藤沢市)の門にも、本学の正門との共通点を多く見出すことができます(図3)。この旧モーガン邸の門は、彼のデザインした門扉が当初のままで残る唯一の作品としても知られています。遠く離れた藤沢で、本学正門の往時の姿を偲ぶことができます。

(工学部 崎山 俊雄)



図1: 支柱が1本おきに切断された手摺

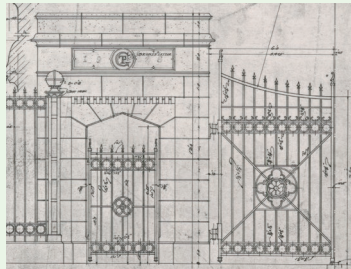


図2: 正門の門扉(設計図の一部をトリミング)

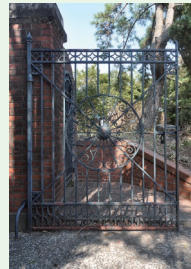


図3: 旧モーガン邸の門扉

「TGCF発足式」が行われました

4月13日(木)に開催されたスプリング・カレッジのプログラムの中で、TGCFの発足式が、宗教センターの野村信チャプレンの開会祈禱によって開催されました。発足式では、宗教センターの活動とスタッフについて紹介した後、「賛美の時」として、キリスト教学生会(KGK)に所属する本学の学生たちによる、「コンテンツポリシー(今どきな)」賛美が二曲披露され、続いて聖歌隊が一曲披露するなど、賛美を中心とした学生たちの活動がこの23年度から始まります。

本学にはキリスト者等推薦学生の他に、この推薦制度を利用せずに入学したクリスチャン学生たちがいます。こうした学生の多くがこれまで、「隠れキリシタン」さながら、本学内で積極的に活動する場がありませんでした。この度のTGCFの発足により、推薦学生も一般学生もともに、相乗効果で、本学のキリスト教の建学の精神に則った学生の主体的な活動が盛んになることが期待されます。五橋キャンパスの開学により、宗教センターも新たな一頁を開きます。TGCFが取り組んだ活動はInstagramなど、SNSを用いて情報発信していく予定ですので、ぜひチェックしていただき、「いいね」を押してください。よろしく願いたします。(宗教センター主任 原田 浩司)



ランカスター神学校訪問報告



モラヴィア大学コメニウス像の前で ベトレヘム 3月9日



モラヴィア兄弟団の墓地 ベトレヘム 3月9日

東北学院の母校ともいべきランカスター神学校との交流は、コロナによって3年間、途絶えていました。その間、ランカスター神学校は、同じペンシルヴァニア州で近隣のベトレヘムにあるモラヴィア大学の大学院となりました。その間の事情をみるべく、理事長特別補佐の鐸木道剛と史資料センター研究員の日野哲が3月5日から15日までランカスター神学校、モラヴィア大学と神学校、そしてランカスター神学校にある福音派改革派歴史協会(ERHS)の史資料が移される可能性があるイーデン神学校に出張しました。

モラヴィア大学は、ドイツ敬虔主義の流れを汲むツィンツェンドルフ伯(1700-1760)とモラヴィア兄弟団が1742年に創建し、ボヘミアの殉教者ヤン・フス(1369頃-1415)と、モラヴィアの教育学者コメニウス(ヤン・コメンスキー 1592-1670)を重要な校祖として、ルター以前に遡る歴史を誇っています。イギリスのウェスレーはアメリカに行く途中の船で同行したモラヴィア兄弟団の人たちの刺激を受けて、メソジストへの道を決意しました。モラヴィア兄弟団の平等思想は徹底していて、その墓地でも、すべての墓石が平板で同じ大きさであることに現れています。

イーデン神学校はセントルイスにある福音派の神学校で、創立は1850年。1936年に福音派が改革派と統合した後は、イーデン神学校からも、東北学院に5人も宣教師が来ています。校長先生も副校長先生も女性で、礼拝も打楽器を使ったりリズムカルな新しい音楽礼拝で、自由な気分を感じました。ランカスター神学校は改革派に淵源しますが、福音派のモラヴィア大学の大学院となることによって、さらに射程を広げることになります。(史資料センター客員研究員 鐸木 道剛)



イーデン神学校のクラウゼ校長宅にて セントルイス 3月12日



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第27号

2023年5月10日発行

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司

東北学院宗教センター TEL：022-354-8310

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp